

厚生労働科学研究費補助金成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業
「わが国における父親の子育て支援を推進するための
科学的根拠の提示と支援プログラムの提案に関する研究」成果報告シンポジウム

父親を取り巻く環境と父親支援のあり方

研究代表者：国立成育医療研究センター政策科学研究部

竹原 健二



はじめに



**なぜ、父親支援が
必要なのでしょうか？**

**父親とその家族が、健康で、
育児を楽しい！楽しかった！
と思ってもらいたいから**

父親支援とは？



**広く認識された
共通の概念はない**

**父親は支援の対象であり、
「支援する人への支援」
の対象でもある**

研究班の取り組み

令和2年度～4年度の3年間にわたり、以下の4つの課題を実施

課題1. 日本の父親の健康・生活実態把握（二次データ解析）

父親のデータが含まれている国の大規模データの解析とエビデンスの創出

課題2. 父親支援の既存制度の把握（一次データ収集）

全国の自治体や企業の父親支援の実施状況の把握と好事例・Tipsの収集

課題3. 父親支援の海外調査（既存資料のレビュー）

先進国の父親支援の取り組みや、海外の研究論文の知見の整理

課題4. 自治体の父親支援モデルの構築・評価（モデル構築・評価）

自治体で実施可能な父親支援の介入モデルの開発と実施・評価

研究班のメンバー

公衆衛生・保健医療に加え、保育・保健師・看護師・心理士など幅広い専門家で構成

- 阿川勇太（大阪総合保育大学）
- 市瀬雄一（国立がんセンター）
- 越智真奈美（国立保健医療科学院）
- 加藤承彦（国立成育医療研究センター）
- 小崎恭弘（大阪教育大学）
- 須藤茉衣子（国立成育医療研究センター）
- 高木悦子（帝京科学大学）
- 立花良之（国立成育医療研究センター）
- 竹原健二（国立成育医療研究センター）
- 永吉真子（名古屋大学）
- 水本深喜（国立成育医療研究センター）

研究班の取り組み



父親の実態の理解とエビデンス
父親支援の実施時のポイント・事例

